

「奇跡の双子ちゃん」

感情的必要のトップテン Part6

今回の「感情的必要のトップテン」は、「安心感」です。

人間関係が潤うためには、互いに安心感を与え合わなければなりません。例えば、夫は自分が、「ただ一人の女性を愛する男」(英語で one woman man)であるということを妻に分かるような仕方で生活しなければなりません。そうすることによって妻は安心感を持つことが出来ます。子供も、父親が母親を、或いは母親が父親を大切にしているのを見て安心感を持ちます。特に親は子供の物質的、肉体的、感情的必要を知っていて、その必要が満たされるようにできるだけのことをしてあげるよという事を子供に伝えなければなりません。安心感が子供に与える良い影響は計り知ることが出来ないほど大切です。安心感は、親から子供だけではなく、子供同士も与え合うことができます。

最近、東京に住んでいる T さんという知り合いからこのような話を聞きました。T さんの友達夫婦に、女の子の双子が未熟児で生まれました。二人とも保育器に入れられていましたが、一人はとても弱く、一人は元気でした。弱い方の赤ちゃんは心臓の状態が悪く、今にも死にそうな状態でした。病院の規則では、赤ちゃんはそれぞれ別々な保育器に入れられなければなりませんでした。ところが一人の看護婦さんにあるアイデアが浮かびました。彼女は病院の規則を破って、弱い方の赤ちゃんを元気な方の赤ちゃんの保育器に入れてもいいかと許可を求めました。その結果、彼女は許可を得て、弱く、死に掛かっている赤ちゃんを元気な赤ちゃんの保育器に入れました。すると驚いたことに、元気な赤ちゃんが弱っている赤ちゃんに腕をかけ、二人は寄り添ったのです。その後、弱っていた赤ちゃんの心臓は安定していき、だんだん強くなっていきました。やがて弱っていた赤ちゃんは回復し、二人とも退院することができ、現在はお父さんお母さんと共に元気に暮らしているそうです。